

太閤立志伝



苦労しないで 出世する方法

上巻





木下藤吉郎、見参!

裸一貫の足輕から身を興し、最後には天下人となって戦乱の日本をひとつにまとめた立て役者。豊臣秀吉の生涯を再現する、この『太閤立志伝』。史実にそって秀吉と同じ道をたどってみるもよし、または史実から離れて、実際の秀吉が成し得なかったことを体験してみるもよし。かなり自由度の高いゲームなのだ。しかし、何をやるにも、やはり基盤となるのは秀吉個人の能力だ。外交力や内政力、統率力といったそれぞれの能力が低ければ、優秀な家臣、同僚を得ることも、合戦

に勝って領土を広げることもできないのだ。それぞれのプレーヤーオリジナルの『太閤絵巻』を描くためにも、このページをじっくり読んで、自分好みの『秀吉作り』をしてみてくれ。

この『太閤立志伝』では、従来の光榮ゲームの特徴であった、プレーヤーによる能力値の決定が復活している。まず最初に、どんなタイプの秀吉にするかを大まかに決めよう。種類は合戦重視の猛将型、外交や調略を得意とする智将型、内政に秀でた能吏型、そして剣ひと筋に生きる武芸者型の4つだ。

このタイプ分けによって、6つに分かれた秀吉の能力値が変化するぞ。この能力値の数値は、自分が納得いくまで何度でも変えることができるので、心ゆくまでやり直すのも可だ。なお、下に基本とな

る6つの能力について説明しておいたので、参照してほしい。

タイプを選択したら、次に50のボーナスポイントをそれぞれの能力に振り分ける。当然のことだが、たとえば武芸者型を選んでおきながら、内政や外交といったあまり関係のない能力にポイントを振るのは愚かだ。タイプごとに得意の能力を伸ばすようにポイントを振り分けよう。ただし、武力にだけは十分にボーナスポイントを振り分けておくべきだ。たとえ智将型などの武力に縁のないタイプを選んだとしても、ゲーム中では、たびたび合戦が起きるし、織田軍に滅ぼされた大名の残党が、秀吉を恨んで攻撃してくることもある。そんなときにあまりにも武力が低いと、あっけなく死んでしまうのだ。武力は最低60はあったほうがいいみたいだな。



●藤吉郎の能力を表わしたリーダーチャートだ。

●外交

この数値が高いほど、同盟や脅迫などの外交交渉がうまく進む。

●内政

内政の巧みさを表わす値。新田開発などの成果に関係している。

●魅力

この数値が高いほど、朝廷工作や登用が成功しやすくなる。

●統率

合戦における兵士たちの扱いの上手さを表わした数値。

●武力

個人戦闘、合戦に限らず、戦闘全般の習熟度を表わした数値。

●野心

藤吉郎の出世欲や、戦国武将としての野心を表わした数値。

●鉄砲

この技能が高いほど、鉄砲隊による攻撃の威力が増す。

●騎馬

この技能が高いと、騎馬隊による通常攻撃が有利になる。

●築城

藤吉郎が、どれだけ築城術に長けているかを表わしている。

●弁舌

この技能が高いと、会話や交渉による駆け引きが有利になる。

●調略

謀略の巧みさを表わしている。登用や調略の成功率に関連。

●茶道

藤吉郎の茶の湯の腕前や、教養の程度を表わしている。

●芸術

この技能が高いほど、外交や朝廷工作が有利に運ぶ。

●文化

藤吉郎の7種類の技能の、総合的な習熟度を表わしている。

秀吉マメ知識

木下藤吉郎こと豊臣秀吉は、尾張国の中村の生まれだ。お父さんは織田家の足輕で木下弥右衛門、お母さんはやえという。子供のときは日吉丸と呼ばれ、7歳で弥右衛門が亡くなると寺に門弟として入れられたらしい。伝説では、そうになっている。



藤吉郎を見守る同僚、上司たち

ここでは、ゲーム序盤で秀吉に深く関係してくる主な登場人物を紹介する。それぞれの名前の前に付いている文字は、その人物の得意分野を表わしているぞ。たとえば池田恒興の“城”というのは、恒興が築城術に長

けているということを表わしている。同様に“剣”は剣術を、“舌”は弁舌を、“調”は調略を、“総”は全分野に総合的に秀でていることを表わしている。

前ページでは、秀吉の主な6つの能力について説明したけど、秀吉にはそ

れ以外に鉄砲、築城といった8つの技能がある。これらはゲームが始まってから、様々な人物に師事して鍛えなければならない。当然、その技能を得意とする人物に師事したほうが、技能の数値は上がりやすいぞ。

城 池田恒興

ゲーム開始時には、秀吉に織田家法を説明してくれる。前田利家とともに親秀吉派の人物である。築城術に長けているが、この恒興に限らず、築城術を教わるには、お礼として相手に手土産を持っていかなければならない。金を貯めて町で何かしかのアイテムを購入して、手土産にしよう。



城 前田利家

利家は騎馬の扱いに長けているのだが、築城技能も1レベル持っている。池田恒興のところに書いたように、ほかの人物に築城を教わる場合は何らかのアイテムが必要なのだが、さすがは秀吉の親友の利家である。彼だけは手土産なしでも築城術を教えてくれるのだ。遠慮せずに、ご教授願おう。



城 河尻秀隆

織田家中には築城術を得意とする人物が多いが、ゲーム中で利家が言うように、そういう人物は出世が早い。ということは、秀吉が築城術を教わろうとしても、身分の違いから断られることがある。しかし、この秀隆は秀吉と同じくらいのスピードで出世するので、比較的築城術を教わりやすいのだ。



剣 金森長近

秀吉の武力は、戦闘によって上げることができるのだが、その条件は自分より数値の高い人物に勝つことだ。左ページのように、初期設定で秀吉の武力を60前後にした場合は、この金森長近が格好の剣術指南の先生になってくれるだろう。帰宅や医者にかかって体力を整えて、一手ご教授願おう。



剣 森 可成

この森可成は、ちょっと厄介な剣術指南の先生だぞ。個人戦闘では、たとえ相手とそれほど武力値が開いていなくても、戦闘レベルが相手よりも劣っていると勝ちにくくなるのだ。で、この可成はゲーム開始時点から秀吉に比べて戦術レベルが高い。容易には勝たせてくれない、厳しい先生となるだろう。



総 明智光秀

織田家中には築城、鉄砲、騎馬の技能に長けた人物は多いが、弁舌や調略に秀でた者は少ない。しかし、この明智光秀はちょっと違うぞ。弁舌、築城、調略など何にでも秀でたオールマイティーな人物なのだ。しかし秀吉との相性はあまりよくないようなので、並の手土産では満足してくれないぞ。



舌 細川藤孝

藤孝は、足利家が滅亡すると、明智光秀や和田惟政とともに織田家に士官してくる。しかしまたたく間に出世してしまうので、師事するなら士官してきた直後が狙い目だ。得意分野は弁舌。なお、弁舌と調略を教わるにはそれぞれ和書、漢書が必要だ。お金を貯めて、それぞれ商人から買ってもらう。



調 竹中半兵衛

戦国史上屈指の名軍師と呼ばれた竹中半兵衛は、ゲームでは稲葉山の町に浪人として登場する。彼もまた明智光秀と同じくオールマイティーな人物なのだが、特に調略技能に秀でている。町で漢書を購入して教えてもらおう。なお、弁舌や調略の師事には、いくらかの教授料が必要なことも忘れずに。



秀吉マメ知識

実際、木下藤吉郎の若いころは、不明な点が多いのだ。織田家にある記録で藤吉郎について書かれているのは、1565年以降のことである。10代ごろに浜松の頭陀寺城城主の松下加兵衛尉に仕えたという話があるが、記録などには残っていない。

藤吉郎、東奔西走す



ゲームの中の藤吉郎は手柄を重ねて身分を上げ、どこかの城の城主になるまでは、毎月1日から5日までの間に開かれる評定には必ず出席しなければならない。評定は、そのときの信長の居城（ゲーム開始時には清洲城）で開かれるのだが、これに欠席すると信長の藤吉郎に対する信頼度が下がってしまうのだ。

とはいえ、天下を狙う織田家の家臣として、藤吉郎は諸国の情勢にも通じていなければならない。そこで内謁コマンドで信長に視察を申し出るのだ。

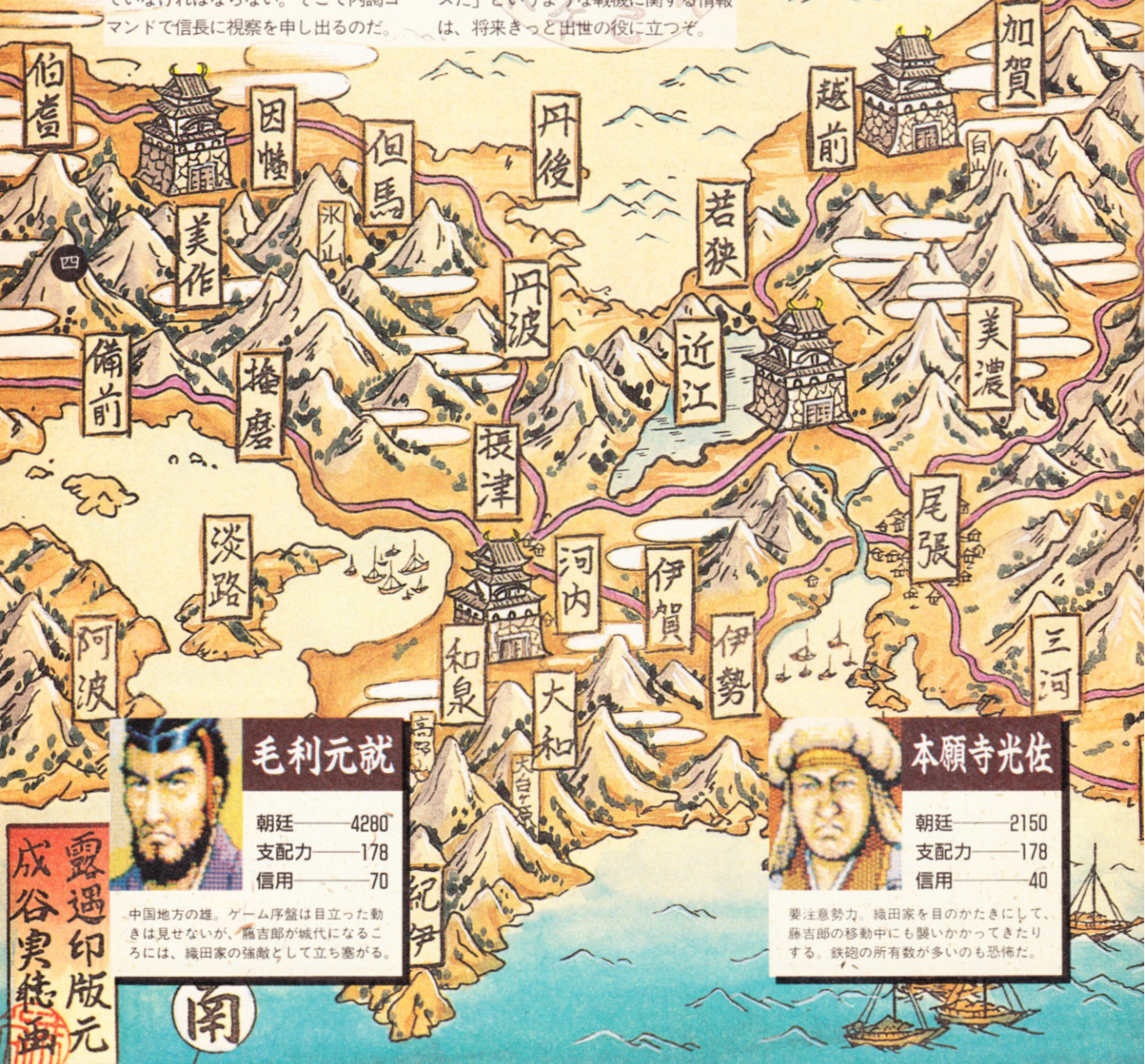
そうすると、諸国を旅することが許され、評定に出席しなくてもよくなるので、その間に各地の大名の情報を仕入れよう。その際には、尾張国内だけではなく、できるだけ遠くの東北や中国地方にも足を伸ばして、できる限りの情報を集めよう。たとえば、「どこそこの町には何を売っていて、どんな人物が住んでいる」というような地勢的な情報や、「どこそこの大名は合戦をしたばかりだから、攻めるなら今がチャンスだ」というような戦機に関する情報は、将来きっと出世の役に立つぞ。



朝倉義景

朝廷——2200
支配力——165
信用——50

反織田家の急先鋒。史実と同様に織田家に悪意を持ち、なにかとちょっかいを出してくる。浅井家と連合すると怖い。



毛利元就

朝廷——4280
支配力——178
信用——70

中国地方の雄。ゲーム序盤は目立った動きは見せないが、藤吉郎が城代になるころには、織田家の強敵として立ち塞がる。



本願寺光佐

朝廷——2150
支配力——178
信用——40

要注意勢力。織田家を目のかたきにして、藤吉郎の移動中にも襲いかかってきたりする。鉄砲の所有数が多いのも恐怖だ。

東国中部近畿海陸景之絵地図



浅井長政

朝廷——1000
支配力——155
信用——80

織田家の同盟国として藤吉郎にも協力的だが、あるときを境に朝倉家とともに反織田勢力となる。戦争は強いぞ。



上杉謙信

朝廷——4000
支配力——250
信用——100

上杉家と織田家がぶつかり合うことは、きわめて少ない。もし交戦するとしてもゲーム後半なので、気にすることはない。



武田信玄

朝廷——3000
支配力——358
信用——50

上杉家と激しく抗争を繰り返すため、織田家とのからみは少ない。ただし、いったん敵に回すと、織田家最大の脅威だ。



今川氏真

朝廷——2992
支配力——180
信用——50

超大国だった今川家も、義元亡きあとには敵ではない。徳川家と連合して、シワジワと攻め滅ぼしてしまおう。



北条氏康

朝廷——1100
支配力——411
信用——60

関東の覇者である北条家がアクティブでないのは、ゲーム中でも同じこと。ゲームの後半まで、藤吉郎とは関係なし。

能登

越中

越後

朝日岳

大目岳

三尾山

磐梯山

岩代

武蔵

下野

赤城山

上野

武蔵

相模

江戸

浅間山

三國山

甲斐

信濃

八ヶ岳

白根山

赤石山

志保山

駿河

伊豆

三ヶ岳

伊豆

伊豆

伊豆

藤吉郎、もの申す!



■毎月開かれるこの評定で、その月の藤吉郎の仕事が決定する。確実にこなして、信長の信頼を勝ち取ろう。

藤吉郎は、毎月1日から5日の間に開かれる評定で、様々な仕事を命令される。ゲームが進行するにつれて身分が上がってくれば、命令される仕事もだんだんと難しく、しかしやり甲斐のあるものになってくる。だが、藤吉郎の身分が低いうちにはそうはいかないぞ。合戦のために鉄砲を買集めたり、余った兵糧を売ったりと、地味な仕事が多いのだ。しかし、だからといって、ここで手を抜いてしまえば出世は遅くなる。地味な仕事の中にも、キラリと光る真の実力を認めてもらえるように働くのだ。そうすれば信頼度も上がるし、身分も高くなる。そこでここでは、序盤に命令される米売り、馬買い、鉄砲購入の仕事について解説しよう。

右の写真は清洲城に近い稲葉山の町だ。ゲーム序盤には、米売りや馬買いの仕事はこの町で行なうことになるだろう。それでは米売りの解説からだ。尾張の国は肥沃な土地なので、織田家中には十分すぎるほどの米がある。そこでその米を売って軍資金にするのだ。

評定でこの仕事を依頼されると、2000石の米を任されるので、稲葉山の町の中にある米屋に売ろう。この際、米屋の主人のつけた値が気に入らなければ、何度でも交渉することができるぞ。ただあまりしつこくやると、藤吉郎の魅力が下がることもあるので要注意だ。もちろん、米が高く売れば売れるほど、信頼度は上がるぞ。

次の馬買いも、最初は稲葉山の町で行なうことになるだろう。信長から預かった予算の中で、できるだけ多くの軍馬を買うのだ。なお、馬屋では購入以外に下働きをすることができる。運

がいいと藤吉郎の8つの技能のうち、騎馬技能が上昇することがあるのだ。ヒマな時間があるときには、ちょくちょく下働きをしたほうがいいだろう。

最後は鉄砲購入の説明だ。鉄砲は鉄砲鍛冶に頼んで、一定の期間をかけて製造してもらう。馬買いと同じく、できるだけ多くの鉄砲を購入したほうが、信長に喜ばれるぞ。なお、戦国時代に鉄砲製造が盛んだったのは、近江の国の国友村だった。ゲーム中でも、鉄砲鍛冶は近江の安土の町にいるぞ。また鉄砲鍛冶の所では、馬屋と同じく下働きによって鉄砲技能を上げることができる。この技能も、できるだけ序盤のうちに上げておいたほうがいいだろう。



米屋



■米屋の主人のつけた値が気に入らなければ、交渉して納得のいく値段にしてもらおう。藤吉郎の魅力が高いほど、交渉は成功しやすいぞ。

馬屋



■馬の購入も、米売りと同じく値段を交渉することができる。できるだけ多くの馬を集めて合戦に投入すれば、それだけ合戦が楽になるぞ。

鉄砲鍛冶



■製造に時間がかかる分、鉄砲購入の仕事はちと厄介だ。しかしそこは巧みに交渉して、できるだけ短い期間で鉄砲を作ってもらおう。

秀吉マメ知識

藤吉郎の奥さんである「ねね」は、織田家家臣の杉原定利の娘である。藤吉郎との結婚に際して、足軽頭であった浅野長勝の養女となっているのだ。結婚は1561年のことといわれ、ねねのほうが8歳ほど年下。夫婦仲はきわめてよかったようだ。



千変万化!! ゲリラ戦をモノにする!

戦国時代とは、武将たちが敵と戦うことによって、自らの領土を広げていった時代のことだ。我々が木下藤吉郎も、身分は低いが、戦国武将のはしぐれ。米屋の主人と、売り値がどうとか交渉するだけが能じゃないのだ。いざ合戦が起きれば、配下の兵を縦横無尽に操り、なみいる敵を討ち倒して敵大将の首を……。と、うまくいけば「苦勞しないで出世する方法」なんて付録もいらないよな。実際には、身分が低いちは任せてもらえる部隊は最弱の足軽隊だし、兵士数もかなり少ない。しかも、ただ戦っているだけでは信長にも認めてもらえないし……。そこでこのページでは、合戦の流れとともに、弱小部隊でいかにして手柄を立てるかを解説しよう。

まず合戦は、戦評定によってどこの国の大名と戦うかが決定される。このとき、先陣、右備え、左備え、大将、後備えなどの陣割りも同時に決められる。危険は多いが、やはり先陣に選ばれれば手柄も立てやすい。しかしそれには、武力や統率力がそれなりに上がっていないと行けないので、序盤に先陣を仰せつかるのはまず無理だろう。

攻め込む先が決まったら、次は軍を率いて移動だ。たいていの場合、移動にはそれほど注意を払う必要はないが、相手に同盟軍がいる場合には、(たとえば浅井・朝倉連合のように)自軍の進行を邪魔されることがあるかもしれない。そういうときには、すばいマウスクリックで敵をかわしつつ、できるだけ損害を被らないよう心がけよう。

いざ戦場についても、いきなり相手と戦うわけにはいかない。「敵を知り、己れを知れば百戦して危うからず」の言葉どおり、次になすべきことは情報を仕入れること、すなわち物見なのだ。能力の高い武将が物見を行なうと、相手の各部隊の兵士数や、部隊の種類、士気値などがすべてわかる。しかし中途半端な能力の人物が行なうと、部隊の種類しかわからない、ということも

あるのだ。ゲーム中盤以降、自分の部隊を持てるようになったら、物見の人選には注意したほうがいいぞ。

そうして敵の戦力を把握して、次に陣形を決めたいよいよ合戦だ。さきほども書いたように、ゲーム序盤では藤吉郎に任される兵はかなり少ない。しかしそれでも手柄を立てたいなら、方法はひとつ。ゲリラ戦しかない。つまり、絶対に真正面からは、敵部隊と戦わないのだ。少ない機動力ながらも戦場を動き回り、味方の部隊がある程度敵を攻撃するのを待とう。どんなに多くの敵部隊を倒しても、やはり一番手柄になるのは、敵大将の首を取ることで。それまではできるだけ兵の損失を抑えて、チャンスを狙うのだ。もしも智将型を選んだのなら、その間に策略コマンドで敵部隊の士気値を下げておくとう利だぞ。たとえ兵士数で劣っていても、こちらの士気のほうが高ければ、相手と互角以上に戦えるのだ。

そうして戦場を臨機応変に駆け巡り、みごと敵大将の首を上げることができれば、信長の信頼度もグリーンと上がるだろう。読者諸君の健闘を祈るぞ。

評定



戦評定は、毎月の評定と違って不定期に開かれる。戦機が訪れたら、何をおいても居城に戻るのだ。

移動



自分の部隊と敵部隊が隣接すると、自動的に野戦になってしまうので、移動にも細心の注意を払おう。

物見



合戦前の、緊迫した雰囲気は伝わってくるグラフィックだ。思わず、「狼! 物見を放て〜!」とか叫びたくなるよな。あつ、俺が狼なのか。

合戦!!



たとえどんなに悪条件でも、それを逆に出世のチャンスだと考えよう。なぜなら、他人が決してダメだと思ふことをやってのけるからこそ、信長は藤吉郎に期待するのだ。その期待を裏切るなよ。

秀吉マメ知識

仲のよい藤吉郎夫婦も、たまには夫婦ゲンカをしたようだ。現存している織田信長の書簡のなかにねねに送ったものがあるのだが、藤吉郎が悪い、おまえは藤吉郎にはもったいない、とねねの藤吉郎に対するグチをなだめるものなのである。

私本太閤記

藤吉郎、天下人への道 前編



それは物見の報告から始まった……



●桶狭間の戦いの第一報は、信長軍の前線基地、丸根砦の物見によって報告された。

第一章

豪雨！ 桶狭間の巻

ここからは、これまでとは打って変わってゲームの流れをリプレーで紹介していくぞ。題して、『ログイン版 私本太閤記』の始まり、始まり～だ。

まず最初の武将タイプ選択では、もちろん史実にそって智将型を選ぶ。武芸者タイプの藤吉郎にも、ちょっと興味を感じたが、この日本史上で最も人気のある人物の特色は、何といても外交や調略といった、会話の駆け引きにあるからね。それを守りましょう。

で、いざゲームを始めてみてビックリ。いきなり戦評定が開かれるんだもん。有無を言わず評定に参加させられて、思わずう～むうとなってしまった。さすがグラフィックには定評がある光栄の歴史モノだけあって、評定のシーンにしばし見入ってしまったのだ。信長がうつけぶりを発揮して、白フン丸出して評定に参加してるのがいよな。そうこうしてるうちに、父子二代で織田家に仕える丹羽長秀が、丸根砦からの報告を信長に伝え始めたぞ。「丸根砦の佐久間盛重から早打ちが参りました。今川軍が大挙して我が国に攻め込んでくるとのことですよ！」

その報告を遮るように、柴田勝家が

話に参加する。理由はわからないけど、この人物はなぜか藤吉郎を毛嫌いしているのだ。俺が出世したら絶対にコキ使ってやるからな、と心に誓いつつも、まあ、勝家の話を聞いてみると……。「今川軍は4万、比べて当方は4千。野戦では勝ち目はないですよ！」

とかなんとか言っている。しかしそんな進言で考えを変える信長ではない。

だが士気に勝る豪雨の中、両軍が入り乱れて血刃を振るう！



史実どおり籠城策を退けて、夜中に敦盛を舞うと、単騎桶狭間を目指して駆けていく。「猿、続け！」との仰せに、藤吉郎もあわてて信長を追いかけろぞ。いよいよ、桶狭間の戦いの始まりだ。

信長の電光石火の奇襲は大成功を収めた。大兵力を過信していた今川軍は、豪雨の中を進軍する信長軍に気づかなかったのだ。雨が、すべての音を消してくれたのだ。信長軍は、義元の隊を包囲するように布陣している。我が藤

一口コラム

梅雨將軍、信長？



織田信長の一生を見ると、並々ならぬ強運の持ち主だったことがわかる。桶狭間の戦いにしても、馬蹄の響きをかき消し、今川義元の本陣に迫った織田兵の姿を隠すほどの豪雨が降ったからこそ、奇跡の勝利を収めることができたのだ。十数年後の長篠の合戦でも、決戦前夜まで雨が降っていた。これによって戦場は足場の悪いぬかるみだらけとなり、騎馬隊を主力とする武田軍には大きな障害になったのである。しかも、いざ決戦のときには雨はきれいに上がり、信長率いる鉄砲隊には何の支障もなかった。ここから、信長に梅雨將軍というあだ名がついたのだ。

吉郎の部隊も、義元隊とは目と鼻の距離にいるぞ。しかしなんとか義元隊に隣接したものの、豪雨の上に機動力の低い足軽隊のため攻撃を加えることはできなかった。そしてその隙に、なんと柴田勝家が義元の首を挙げてしまったのだ！ ヤツの部隊は、高い機動力と攻撃力を誇る騎馬隊。初めから勝ち目はないね。しかしここでクサッてしまっても仕方がないので、得意の策略で近くの由比正信や庵原将監の部隊の士気を下げて、一気に攻撃をしかけた。こちらの兵士数が100に対して、相手は3倍、4倍もの兵を持っていたのだが、士気値の違いから簡単に勝利をモノにすることができた。我が主君信長も、策略コマンドの「誘降」で、井伊直盛を軍門に下したようだ。

そうするうちに、生き残った今川軍のほかの部隊は、次々と戦場から離脱していった。圧倒的兵力を誇った今川軍は、10分の1の信長軍にまさかの敗退を喫したのである。

第二章

目指せ、米売り エキスパートの巻

織田家の存亡を賭けた桶狭間の戦いも終わり、家中にも平和な空気が戻った。しかし我らが藤吉郎にとっては、これから毎日が正念場なのだ。桶狭間の合戦での立て役者は、大将義元の首を挙げた柴田勝家である。大した手柄も立てられなかった藤吉郎には、信長はおろか、ほかの誰も注目してくれないのだ。しかし、こんなことでふてクサれる藤吉郎ではない。合戦での槍働きができなかったのなら、内政面で活躍すればいい！ そう自分に言い聞かせて、次の月の評定に赴くぞ。

「藤吉郎には兵糧売却を申し付ける！」しかし尊敬する信長公に頼まれた仕事は、誰にでもできそうな兵糧売却。早い話が2000石の兵糧を米屋に運んで、軍資金に変えるだけだ。よ～し、こうなったら！ と半ばヤケ気味になって米屋に行って、店のオヤジを相手に交渉しまくる。ねばった甲斐があって、最初の言い値の800貫から、一気に1000

この桶狭間の戦いに負けたばかりに、現在ではさも愚将だったようにいわれている義元。しかし血筋といい内政手腕といい、むしろ名将の器量を備えていたのだ。この敗戦さえなければ、間違いなく足利幕府の瓦解を防いだらう。

まさか
こんな所で
果てようとは……

■大将を討ち取られ、今川軍は無残にも壊滅した。



貫以上の値で売れたぞ。これで信長公も喜んでくださるだろう。こうして意気揚々と清洲城に帰る藤吉郎であった。

そして次の月。味をしめた藤吉郎は、自ら兵糧売却の仕事を買って出た。滝川一益が、「猿にはその程度の仕事が似合いだ」というようなことを言っていたが、そんなことには耳も貸さずにせっせと稲葉山の町と清洲城を往復した。おかげで信頼度もかなり上がったし、稲葉山の町の様子も把握できたぞ。

稲葉山の町には、まず悪名高き土豪集団、蜂須賀党の親分の小六正勝がいる。小六は織田家中の武将と比べても、決してひけをとらないくらいの武力を誇っている。智将型の藤吉郎としては、この武力の高さはうらやましい限り。いつかこんな武将を配下に持ちたいものだ。ほかに特筆すべき人物としては、竹中半兵衛重治がいる。この人もまたスゴイ。

■この町はただ歩くだけでも楽しい。ヒマなときには訪れてみよう。

外交や内政といった能力値もさることながら、鉄砲、騎馬、調略、弁舌といった技能の値がすさまじい！ 小六ともども、半兵衛にもいつか我が幕下に入ってもらおうぞ！



■藤吉郎の魅力があまり高くない場合は、交渉のやりすぎには注意だ。魅力が下がるぞ。



秀吉マメ知識

若きころの藤吉郎の最大の手柄として知られる墨俣城の建設は、現実にあったかどうかはさだかではない。1565年9月のことだといわれているが、記録としては残っていないのだ。しかし、伝説どおりの建築法ならば、短期間での完成は可能である。

第三章

苦節、下働きの日々の巻

織田家家中に米売りエキスパートの藤吉郎あり！との噂が諸国に流れるころ(?)、我が藤吉郎は、新たな任務に就いていた。すなわちそれは、鉄砲の購入である。4～5ページにも書いたように、諸国をマメに探索していれば、鉄砲を買うのなら、どこの商人が一番安いのか、というのはわかってはいるはずだ。我が藤吉郎もすでに調査済みで、堺の南蛮商人を利用すれば手

■鉄砲鍛冶の下働きは体調のよいときに！ハンパな辛さじゃないぞ。

っ取り早く任務を終えられることを知っていた。しかし、ここではそうはせずに、あえて安土の町の鉄砲鍛冶を訪ねてみることにしたぞ。

安土で製造してもらえる鉄砲の数は、ともすれば近畿の商人たちから売ってもらうよりも少ない場合がある。だが、そんなことは気にしない。もちろん、より多く鉄砲を購入すれば、それだけ信頼度も上がるのだが、それよりも鉄砲を作ってもらっている間に、下働

■िकासせ馬屋の主人！理由は騎馬技能を最大まで上げてのお楽しみ。



えるはずだ。そうすれば出世も近くなるって寸法だ。先行投資ってやつだな。

次の月には、同じ理由で軍馬の購入を申し出た。さっそく稲葉山の町の馬屋で軍馬を購入するとともに、下働きを開始した。おかげで、騎馬技能が最大まで上昇したが、かわりに藤吉郎の体力が局限まで下がってしまった。たとえ出世のためとはいえ、このリスクはけっこう痛いぞ。せっかく身を粉にして稼いだ資金も、すべて体力回復のために医者に取り取られてしまうんだからな！まあ、いつの時代でもアルバイトはツライってことだ！



第四章

決死！墨俣築城の巻

騎馬技能や鉄砲技能も最大まで上げ、我が藤吉郎は織田家中でもそこそこ名を知られるようになった。最初のころは藤吉郎のことを猿だ何だと呼んでいたヤツらが、城内コマンドで面会を求めたとき「ややっ、これは木下殿、本日はいかなる用件でござるか？」などと言うのを聞くのは気分がいい。とはいえ、憎き柴田勝家は武力バカゆえに合戦での手柄が多く、危険もかえりみずに突撃でもしかけているのか、やたらに大将首をモノにしているようだ。悔しいけど、追いつくどころかさらに身分が離れていく。この分だと、織田家の宿老に就任するのも間近だろう。対する自分は、いまだに奉行。でもこれだって、ゲーム開始時の足輕頭に比べればかなりの出世だ。ゲーム時間にして、1年くらいで奉行だもんな。まあ、あせらずにその都度、確実に任務をこなしていこう。……………クソッ。

さて、身分も上がってきて、そろそろ米売りや鉄砲購入にも飽きてきたころ、藤吉郎の人生を左右する大事件が発生した。桶狭間の合戦以来、あれほどの大国だった今川家は、織田家、徳川家に挟まれてすっかり影を潜めてしまったのだが、そのかわりに美濃の斎藤家が台頭してきたのだ。我が信長公

は、その斎藤家を討つというのだ。

ゲーム中での当主は、斎藤家の当主の中では暗愚とされていた竜興だが、マムシと恐れられた道三や、その道三を倒した義竜の鍛えた美濃兵は依然精強だ。加えて、稲葉一鉄、氏家ト全、安藤守就ら西美濃三人衆も健在で、もし彼らの率いる美濃兵と戦うのならば、織田軍はかなりの苦戦を強いられるだ

一口
コラム

墨俣城、築城秘話



秀吉が築城したとされる墨俣城は、城というよりは実際は砦に近かったらしい。歴史書が伝えるところによれば、秀吉は蜂須賀小六らの協力によって大人数の木工、木こりを、墨俣と墨俣に通じる川の上流に動員したのだという。作業は、まず木こりに川の上流で木を伐採させ、それを筏に組んで下流に流す。その筏を、下流の墨俣で木工たちが受けて、砦に組み上げる。その間、秀吉や小六は部隊を指揮して斎藤家の襲撃を防ぐというワケだ。各自の仕事を組織的に分担して、今で言う流れ作業を行なったところに、墨俣城が一夜で完成した秘密があったのだ。

秀吉マメ知識

20代前半までの働きがあらゆる藤吉郎の本当の活躍は、織田家の美濃国制圧以降から始まる。ゲーム中でも藤吉郎が大きな仕事ができるのは、墨俣城建設以降だぞ。次号の下巻では、そんな藤吉郎の熱い働きをさらにご紹介だ。しばし、待たれよ！



無念!!
勝家

誰がやったって
墨俣築城は絶対に
不可能じゃ!

ろう。しかしさすがは尊敬する信長公。それに対する策をちゃんと考えていた。それは、斎藤家の居城、稲葉山城の喉元にあたる墨俣に、城を築くというのだ! いやあ、さすがはワンマン体勢の織田家だ。ほかの家中で殿様がこんなことを言えば、家臣たちに総スカンを食うはずだ。独裁者信長だからこそ、こんな無理が言えるんだよな。

だって冷静に考えてみよ。確かに墨俣に城を築くことができれば、稲葉山城の喉元に刃物を突きつけたも同様なのだが、それだけに築城にはかなりの危険がともなう。織田家中一のイケイケで知られるあの勝家さえ、この信長の策には尻込みしている。もちろん、その後信長に一喝されたけど……。

ともかく、信長の決心は強く、結局は筆頭家老である勝家が、墨俣城築城の監督を務めることになった。何度も稲葉山と清洲城の間を往復して、墨俣の地理にも精通していた俺は、その評定の席で勝家の手助けを申し出たのだが、あっけなく断わられた。あの武力バカは、「猿の手助けなどいらぬ!」などとぼさきやがったのだ。そして兵と軍資金を持って悠々と清洲城を出発したのだった。あんな風に、人のせっかくの好意も無にするようなヤツは、とっとと失敗して帰ってくればいいのだ。

と思ったら、1ヵ月たつた、たまたまうちに、ほうほうの体で勝家が逃げ帰ってきた。挙げ句の果てに吐いたセリフが、「殿! 墨俣の地に城を築くなど、到底できません!」だ。

もちろん信長の激怒を買ったことは言うまでもない。ここでいよいよ真打ちの登場だ。勝家はいわば引き立て役だね。我らが藤吉郎は、勝家の報告を聞く評定の席で、誰もが尻込みをする中、堂々と墨俣築城の任務を買って

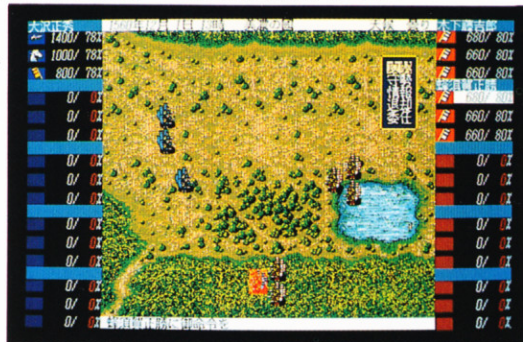
出たのだ! しかも信長が費用として1万貫をくれるというのに、そのたった10分の1の費用で完成させるとまで言い切ったのだ。我ながら、オイオイ、本当に大丈夫なのか? と思ってしまった。親切な前田利家も心配して声をかけてくれたが、当の藤吉郎は、「いやあ、何とかやるでござるよ」とかなんとか悠長なことを言っている。うへん、どこまでも頼もしい(?)ヤツ。

しかし、藤吉郎にまったく策がないワケではなかった。稲葉山の町には、斎藤家にも織田家にも仕えない豪族たちの元締め、蜂須賀小六正勝がいるのだ。彼を味方にできれば、墨俣の築城も可能なのではないだろうか。というワケで、藤吉郎はさっそく稲葉山の町で小六を誘ってみた。条件は、築城が成功した暁には、小六を織田家家臣に取り立てるといもの。これには小六も納得してくれ、かくて藤吉郎と小六のコンビは、墨俣の地に築城に取りかかったのだ。

もちろん、築城はそう簡単には終わらない。

何度も城内に出入りして、築城の進み具合をチェックする。運が悪いと、ここで斎藤軍に襲撃を受けることがあるが、このときの注意点を教えておこう。

野戦は、日没になると強制的に終了するので、もしも斎藤軍と戦わなければならないなくなったら、なるべく時間を延ばして日没近くから戦い始めること。また、斎藤軍は鉄砲隊を率いてくる可能性が高いので、天候ウィンドーに注意して、豪雨のときを選んで戦おう。藤吉郎と小六の部隊はおそらく足軽隊になるので、真正面から戦っても決して勝つことはできないぞ。あとは、7ページの合戦の解説を、もう一度復習すれば大丈夫だ。その戦いに勝ち抜いたとき、対斎藤家の軍事拠点となる、墨俣城が完成するのだ!



▲墨俣築城は、いかに斎藤軍の攻撃を退けるかにかかっている。もちろん、合戦に勝つのが一番だが、撃退するだけでも十分だぞ。

完成! 墨俣城!!



木下は墨俣の地に砦を築いた
織田家の念願であり、悲願であるこの砦は
対斎藤の軍事拠点として、多年に渡り、橋
頭堡の役割を果たすことになる
その影には海東郡須賀村の土豪小六正勝
の助力があったと伝えられる
西暦1560年12月2日、未明のことであった



▲幾多の苦勞を乗り越え、墨俣城を完成させればこの画面を拝むことができる。この後、信長公からおほめの言葉をいただいたりした日にゃ、これまでの苦勞なんてアッという間に吹き飛ぶぞ。

以下、下巻に続く!

太閤

立志伝



苦勞しないで出世する方法

LOGIN 6号特別付録

平成4年3月6日発行（毎月2回第1、第3金曜日発行）第11巻 通巻145号

Printed in Japan